しろはく活動記録

古地図と城の泉　第5号

平成２６年４月１日

しろはく古地図と城の博物館　富原文庫

始めに

安中市学習の森生涯学習館（歴史博物館）で、昨年の『会津若松城下絵図屏風』展に続き『城絵図に見る上州の戦国時代』展を開催していただくこととなった。展示に際し、展示資料の解説を作成するのに予想以上の時間を要した。現役時代は年間数回の大規模な展示会の企画運営を担当し、展示企画には慣れていたつもりであったが、それでも、展示会間際、多くのスタッフに助けられ、夜中３時ごろまで奮戦していたことを思い出した。展示会は安中市教育委員会主催でポスター、チラシ、図録と作成していただき、展示設営をしていただいた。前回の会津展は八重の桜に関連して会津であったが、今回は安中で群馬の展示である。展示会を通じて、群馬になぜ、１０００を数える城館が残されたかを理解いただければ幸いである。遠い先の話であるとは思うが埋もれている安中城跡がもう少し城跡公園として整備されることを願っている。「安中城はどこにありますか」という質問にいつまでも地下とは言えない。決して、安中城復元を期待しているわけではない。安中市最大の遺跡、安中城跡が市民に認知され、山中城跡や箕輪城跡のように散策できることを期待している。

城郭現地調査報告及び資料調査

1･『城絵図に見る上野国の戦国時代―富原文庫所蔵城絵図の世界』―開催あいさつ

群馬には上杉、武田、北條と戦国時代の多くの群雄と対話できる素晴らしい城跡が多く残されています。今回は古城跡絵図や錦絵という江戸の人々の感性の遺された資料によって、戦国時代の息吹を感じていただこうとするものです。江戸中期に描かれた軍学者の研究成果に、今は残されていない、当時の城跡の姿を見ることが出来ます。図像研究としてはまだまだ未開拓の分野です。

初公開の木部道金書状石摺に書かれた「あんなか」の文字は安中地名の由来を通説とされてきた永禄２年を１００年以

上遡るものです。従来、某入道文書として、注目されることはありませんでした。今後議論が進むことを期待しています。中世戦国時代の古城絵図については、多くを公開しましたが、日本城郭史学会西ケ谷代表から平井城絵図データーを提供いただき、本城と詰城絵図が数百年ぶりに揃うことに成りました。

富原文庫所蔵の近世城郭の基本絵図である、フランス発見、明治５年の陸軍省城郭存廃絵図１２８枚に関東地区は含まれていません。近世城郭絵図は基本、藩用図として、旧藩に多く残されています。今回も安中城について、東京古地図倶楽部山下代表、内藤家の最終赴任地である豊田の梅村清春氏からデーターをいただき、又、安中市教育委員会の配慮で多くの城絵図を旧藩関係から提供いただきました。安中居館、内藤氏安中築城、幕末板倉氏安中城と、これほど多くの安中城絵図が公開されることは始めてです。安中城主要部は幸い安中市所有地として地下に埋蔵しています。これを機会に安中市最大の遺跡、安中城研究が進展することを期待しています。

2･『城絵図に見る上野国の戦国時代』展示図録解説『城絵図の世界』

戦後、城郭研究の基本は現存遺構を無視した回顧的な歴史を求めることから、現存遺構の解明、すなわち、最末期の廃城時の縄張研究に移行しました。そこには、当時の一級資料としての遺跡が残されています。城絵図それらの遺構を遡り、その瞬間で切り取ったものです。城絵図が豊富に残されている場合は、編年を追うことで城郭の変遷を手繰ることが出来ます。

城絵図が図像研究として、生かされることはまだ限られています。これらの成果がデジタルや印刷、展示会等で公開されて、まだ、それほど時間を経過していないことも原因です。城絵図を公開することは城郭遺構の解明に大きな力を発揮します。全国の大名家に残された文庫によって公開された画像に注目し、残された遺構との比較検証を実施してください。

城というと一般には近世城郭であり、城絵図も幕府が諸大名に提出させた内閣文庫の正保城絵図を思い浮かべます。戊辰の戦役等で失われ、現在は６３城図しか残されていませんが、かっては当時の城持大名すべてで作成され、記録では１５０余城の絵図が存在しました。そこには、江戸初期の城郭の姿を読み取ることが可能です。又、従来、粗略で間違いだらけとされた全国１４４城の城郭絵図集である主図合結記も、近年全国で城郭調査が進展するにつけ、それらの一部は間違いでなく、未知であった江戸初期の城の姿を現したものとして再評価されています。築城期以降、幕末までの縄張変遷については基本、城は幕府からの預かりものとし、武家諸法度により作成された城郭修理届出絵図で、災害時の被災状況と当時の城郭の構造を知ることが出来ます。幕府提出正絵図は焼失によりほとんど残されていませんが、国元の控図や幕府担当者の控図が多く各地に残されています。そして、幕末、最末期の近世城郭に於いても、大政奉還による江戸詰武士の帰藩に伴う城地の開墾や、明治以降も軍営設営、民間払下げ、戦災、自然災害によって、又、急激な都市化によって、城郭遺構は急激な破壊を受け、全国に元の姿を残している城郭は全くない現状にあります。それを明らかにしてくれるのは、明治政府が明治４年、５年に実施した城郭存廃調査に伴う城絵図です。そこには破壊される前の城郭の姿が明確に記録されています。

陸軍省築造局によって作成された絵図の存在が判明したのはわずか３年前、平成２３年である。その前年、パリで発見され、調査の結果それが城郭存廃絵図であることが分かったのが、翌年であった。それまで、正保城絵図以外に全国規模で実施された城郭調査は知られていない。まさに幻の城郭調査絵図、これを陸軍省城絵図とした。絵図は明治５年３月１５日の陸軍省達、巡見参謀将校職務大略によって、書式を統一した詳細なものであった。大きなものは４ｍに及び、まだ、一部は散逸しているが、現在１２８絵図を保存している。残念ながら、前年１２月に実施された関東地区

の調査絵図や中四国地域は残されていない。明治以降、城郭が埋もれていくさまは、木版に代わり開発された、銅版や石版によって、詳細な地図が作成されるにおよび、その編年を探ることが可能となった

近世城郭の解明は正保城絵図、修理絵図、陸軍省城絵図を基本とし、各藩が藩政運営のために作成した藩主家、藩役所に収蔵される絵図が地元に残されている。それは、転封によって、所領を変更された大名家の最終赴任地にも多く現存する。歴代藩主家やすべての幕末赴任地における博物館、文書館に所蔵される。

一方、中世城郭の研究は戦後、急激に進展した。一級資料である現存遺構の解明が全国で城郭研究者により実施され、その成果が中世城郭研究会や各地の研究会で公表され、多くの城郭研究者を行政や大学関係者にも生み出した。それはやがて、文化庁による中世城郭分布調査につながることに成る。

城郭の研究は戦前は陸軍参謀本部築城史編纂委員会が研究者の協力も得て、積極的に行い、『大日本築城史』も計画されたが、戦災で焼失した。これらの成果の一部が陸軍教本として、１００余冊の『築城学教程』や『大日本築城史稿本築城史料』、又、国会図書館に調査担当者の資料が『日本城郭史料』として残されている。これらは、文化庁が行ってきた悉皆調査による城郭遺構縄張図作成に先行するものである。今は喪失した戦前の城郭遺構の姿を示してくれ、貴重な城郭図である。

しかし、それに先行する江戸時代中期、元和一国一城令や武家諸法度による城郭規制により、城郭がほとんど必要とされなかった時代、軍学者といわれる城郭研究家による業績はあまり知られていない。兵法築城学として体系された兵法家による業績である。大きく分けて２系統、一は実際の古城を見分し、記録、つまり古城絵図を作成することである。今一つは机上で城郭の縄張り研究をすることで、架空の城郭絵図が多く作成された。前者では加賀藩の有沢永貞の『諸国居城図』や弘前藩の『城築規範』、山鹿流の最大の城郭絵図集『城塞繹史』、浅野家の『諸国古城之図』、国会図書館の『諸国古城之図』『古戦古城之図』等多くの成果を生み出した。諸藩が軍学者を抱え、各地の調査を実施し記録された。多くの絵図が残されたが、それに先立ち、幕府巡見士による全国の古城調査の記録が後に古城書上げや古城記として残された。

徳川幕府が取り入れた甲州流兵法が中心となり、多くの分派が発生した。甲州流は特に武田、上杉等の戦跡研究、古城研究を盛んに行ない、今から約２００年以上前の城跡の姿を示してくれる。彼らはまさに、江戸の城郭研究家であった。軍事的、築城的視点で要所を抑え、空堀、堀切、土塁、櫓台、切岸等今は失われた多くの遺構を現在に見せてくれる。そこにあるのは今の城郭研究家と同じ視点で城郭遺構図、縄張図を作成した。否、今の城郭研究家が当時の軍学者と同じ視点であるのかもしれない。富原文庫も伊豆木小笠原家甲州流軍学者加藤正治の調査絵図や多くの古城絵図を所蔵しているが、実にリアルに城跡の姿を浮かび上がらせてくれる。まさに、中世城郭研究の基本資料である。一方、後者の研究業績は築城秘伝書や縄張練習図として、師匠から弟子へ伝えられた。絵図、絵巻、秘伝書や古城の築城構想検証絵図、古城に名を借りた想像絵図まで残されている。究極は築城研究が机上の学問となり、堀をいろは４８文字になぞえて城郭絵図を描いたものまで出現した。

一方。幕末、諸外国の侵略の危機にある中で、幕府と諸藩は全国に１０００の台場と西洋式稜堡城郭を脅威にさらされる沿岸地域に構築した。五稜郭や品川台場、幕末に新規築城された城郭、これらについては築城設計図が残されている。最近世城郭と分類されるこれらの城郭絵図は西洋の築城書を翻訳し、諸外国の大型砲艦に対応するべく、設計構築された。各地で発見される、台場絵図といわれるもので、設計図、完成図、さらには、風景や錦絵にまで取り込まれた。

城郭絵図の多様さを近世城郭、中世城郭さらに最近世城郭に分けて、その見方を検討したが、特

異な例として、木図や土図がある。有名なものは前田家の中世末森城跡木図や丸亀市立資料館の丸亀城木図である。さすがに壊れやすい土図は城絵図では残されていないが、会津の山神流秘伝書には「方５尺高さ１尺の箱に砂を盛、水を注ぎ、大小円形方形数１０種の金へらで、土塁、堀、櫓のかたちを作る。要は地形を考え、歩足の状況、攻守の法を会得する」とある。リアルな立体図像はより城の姿、攻防の実際を再現したことであろう。

城郭絵図は近年、地域城郭ごとに編年した絵図集が多く刊行されている。今回のような城郭絵図展も各地で開催されるようになった。また、歴史絵、合戦絵といわれる幕末錦絵は想像の産物であるが、江戸期、武家が存在した時代をリアルに現代に伝え、近年は城郭錦絵展まで開催されるようになった。近年の資料根拠のない城郭復元図と同様、学問的罪悪は別にして、親しまれるものであったと考えられる。

城郭絵図や錦絵の公開が今後の城郭研究、未知の城跡の解明に基本資料として役立つことを期待したい。

3･展示会出展予定目録

次頁

4･展示会主要展示城絵図解説

古戦略地図全　武家事紀巻二十八戦略　川越夜戦

４２の古合戦を描く 46 絵図集である。古戦略地図全とあるが、内題に武家事紀巻 28 戦略とあり、甲州流軍学者山鹿素行の精密写本である、本来、戦略地図とあり、古戦としてまとめたものと考えられる。戦後の１冊本武家事紀には地図は収録されず、一般に古戦図があることが認知されていないが、戦前の３冊本武家事紀には巻２８続集戦略地図として、白黒線画で縮図され掲載されている。文字が小さく本図もほとんど見られていない。多くの絵図が色刷で美しく描かれているが、今回の川越夜戦図は粗略である。刊行本と校合すると本図には巻末 7 図が未掲載であり、全とは言えない。

上州平井古城図

関東管領山内上杉氏の現在平井金山城と呼ばれている詰城絵図である。現状遺構を観察したうえで描かれた調査図である。平井城は現在の藤岡市西平井の鮎川断崖上に本城、南１ｋｍの標高３２６ｍの金山山頂に要害が築かれた。永享１０年１４３７年長尾忠房の築城と伝える。足利持氏と山内上杉の抗争の舞台であり、上杉氏によって関東管領府として整備され、都文化がさかえた。川越夜戦で北條氏に敗れ、天文２０年１５５１年越後に退去後は北條の支配となったが、翌年１５５２年上杉景虎に奪還され、廃城とされた。絵図は廃城時の遺構を江戸初期に調査したもので、現在は仮の名称で呼ばれているが、江戸期の呼称を知ることが出来る。中心部に本丸があり、東西の尾根に２ノ丸が伸び、北側に３の丸、さらに北の丸が５段となるとなり、尾根上に鐘釣堂、斥候櫓が記される。北の丸から分岐して東北方向に出丸が４段あり、大手口とされる。此の尾根上には現在櫃岩と呼ばれる大岩が描かれる。この尾根が斥候櫓との間の谷筋にある侍町に通じたと考えられる。本丸と斥候櫓間の谷筋は風呂之谷とされ、平地部は畑に開墾されている。鮎川は阿井川とされ、侍町から小幡海道が通じ、途中、藤岡方向に分岐し、阿井川に面する本城は上杉管領屋敷とされ、今は真言寺有之とされ、平井村に通じている。阿井川の幅は５０－６０間とされ、侍屋敷から渡船で藤岡美津がある。堀切や腰郭、要地の高低等が記入され、周辺山地からの距離が記入されるなど、明らかに築城研究のための調査絵図であり、現在の測量図と比較してもほぼ全域が調査され、平井城研究の基本資料といえる。なお、本図は寛文１２年１６７２年弘前藩甲州流軍学者貴氏元親編纂の『城築規範』７２城に縮小収録されていため、本図の成立は寛文以前となる。また、信州伊豆木小笠原藩甲州流軍学者加藤正治が寛政７－１１年１７９５－９９年に編纂した調査図に上野平井上杉古城が収録されている。本図は浅野家や旧参謀本部にも同様図が伝来しており、軍学上の平井城を伝える標準図形である。かなり、デフォルメされているが、基本となる尾根、郭配置は捉えられている。加藤図には甲州流軍学の祖小幡景

番号	資料名	時期	所蔵者
1	写真　陸軍省城絵図（摂津国高槻城）	明治5年1872）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
2	神明鏡	江戸時代	安中市教育委員会
3	太平記	江戸時代	安中市教育委員会
4	上州平井古城図	江戸時代中期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
5	写真　上野国西平井旧城図	文化13年（1816）4月	西ケ谷 泰弘
6	伊那甲州流軍学者加藤正治調査絵図（上野平井・信州上田）	寛政7～11年（1795～1799）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
7	古戦略地図（天文十三辰年武州川越）	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
8	須藤井重田家文書（北条氏康感状写）	明治19年（1886）11月	小林 光
9	写真　安中忠政坐像	正徳4年（1714）9月	中秋間・全性寺
10	安中左近将監御系図写	江戸時代中期	小林 光
11	石倉　榛名神社文書（木部弾正左衛門道金書等10通）	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
12	写真　安中頸繁奉納兜前立	永正4年（1507）	富岡市・一之宮貫前神社
13	写真　竹虎鏡　国指定重要文化財	13世紀	富岡市・一之宮貫前神社
14	安中景繁書状	永禄9年（1566）11月2日	板鼻・長伝寺
15	安中重繁制札	永禄11年（1568）6月	板鼻・長伝寺
16	錦絵　上杉廿四将　一壽斎芳員　縦2枚	嘉永5年（1852）6月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
17	錦絵　武田二十四将画像　一壽斎芳員　縦2枚	嘉永5年（1852）閏2月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
18	錦絵　長尾輝虎入道謙信　一勇斎国芳	幕末～明治時代初期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
19	錦絵　武田大膳太夫晴信入道信玄　一勇斎国芳	幕末～明治時代初期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
20	錦絵　本朝名将鏡（北条左京大夫氏康）　一寿斎芳員	安政5年（1858）8月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
21	越後国頸城郡春日山城之図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
22	信玄公古城之絵図	江戸時代中期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
23	甲陽軍鑑攻戦地理之図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
24	笛吹峠合戦絵図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
25	図讃抄遺（38図の内　上野国三寺尾合戦・西上野）	宝暦12年（1762）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
26	絵本甲越軍記（挿絵）芋吹嶺合戦・安中越前守武勇の図・松井田越前守勇戦の図）	文化4年（1807）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
27	安中城攻之図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
28	上州箕輪古城図	江戸時代中期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
29	陣立図巻（上州前橋攻陣立・相州小田原攻陣立等）	江戸時代中期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
30	上野国箕輪城之図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
31	錦絵　長篠大戦之図　孟斎・芳虎合作　3枚続	明治7年4月（1874）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
32	錦絵　武田伊那四郎勝頼天正八年上州膳城素肌攻め　芳虎　3枚続	元治元年（1864）7月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
33	錦絵　小田上総介平春永　歌川国輝	明治5年5月（1872）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
34	近江国蒲生郡安土古城図	貞享4年（1687）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
35	信州伊奈郡大嶋古城図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
36	信州高遠城図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
37	信長記	寛文12年（1672）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
38	惣見記（織田軍記）	元禄15年（1702）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
39	錦絵　本能寺焼討之図　揚斎延一	明治29年（1896）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
40	上州松井田古屋城武州川越ノ城両城主大道寺駿河守家中銘細記	江戸時代後期	安中市教育委員会
41	大道寺政繁像	元禄2年（1689）	新堀・補陀寺
42	上野国碓氷郡青龍山松枝落城書	江戸時代	神戸 修司
43	開山語録	貞享5年（1688）7月	小林 光
44	上州大泉山補陀寺続伝記	正徳3年（1713）12月	新堀・補陀寺
45	北条家朱印状　小林壮吉家文書	天正10年（1582）7月9日	小林 光
46	摂州大坂本丸図（豊臣時代）	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
47	摂州大坂本丸図（豊臣時代・旧参謀本部所蔵焼失図故桜井成広写）	昭和11年（1936）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
48	駿府城絵図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
49	加賀国金沢城絵図	宝暦13年（1763）5月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
50	山中陣図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
51	天正十八年松山城攻めの図　鳥瞰図	明治時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
52	武州鉢形城古図（天正城攻め図）	近代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
53	天正年間忍城図	近代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
54	錦絵　源頼信より平忠常大椎城水攻之図　玉蘭斎貞秀　3枚続	弘化年間（1844～1848）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
55	慶安元年武州八王子古城図（南多摩郡元八王子村城山古図）	昭和24年（1949）3月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
56	小田原外構之図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
57	権現様御陣場図	江戸時代	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
58	甍軍談五十四場　一勇斎芳艷　（全55枚の内、小田原役関連3図）	万延元年（1860）10月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
59	古城跡目（25図の内　長野信濃守居城・上野国群馬郡倉ヶ野城）	江戸時代中期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
60	武州上州信州古城絵巻（42図の内　上州平井話城・古屋力古城・板鼻城・五閑城・倉ヶ野城・松山城）	江戸時代中期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
61	古城図（36図の内　上州松枝・上州箕輪・武州松山）	文政13年（1830）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
62	写真　安中諸国居城図	元禄5年（1692）	山下 和正
63	写真　安中町　諸国居城図	元禄5年（1692）	山下 和正
64	写真　安中　諸国居城図	元禄5年（1692）	前田育徳会
65	写真　安中町　諸国居城図	元禄5年（1692）	前田育徳会
66	写真　上野国安中城修理絵図	享保6年（1721）	梅村 清春
67	写真　上野国安中城絵図	江戸時代中期	明治大学博物館
68	安中城絵図	江戸時代後期	小林 光
69	安中藩内之図	江戸時代後期	美濃部 浩二
70	安中城絵図・小野直文書　群馬県指定重要文化財	江戸時代後期	安中市教育委員会
71	旧安中県城内鹿絵図（安中城本丸鹿絵図）、小野直文書　群馬県指定重要文化財	江戸時代後期	安中市教育委員会
72	安中城二の丸鹿絵図　小野直文書　群馬県指定重要文化財	江戸時代後期	安中市教育委員会
73	安中城内地図（伝馬町・田島栄吉氏旧蔵）	江戸時代後期	安中市教育委員会
74	安中城御殿向御絵図面（上野尻・篠庭昭男氏所蔵）	昭和38年（1963）	淡路 博和
75	安中町郷土誌（安中城図）	明治時代	安中市教育委員会
76	上州群馬郡前橋城図　縮図2分10間	江戸時代末期	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
77	上野国館林城図	貞享5年（1688）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
78	上野国群馬郡高崎御城下町絵図面	寛政8年（1796）	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
79	上州沼田之図　天和2年（1682）原図写	天保3年（1832）9月	しろはく古地図と城の博物館富原文庫
80	板鼻古城出土遺物（内耳土鍋・かわらけ・陶磁器片・湯釜）	14～15世紀	安中市教育委員会
81	中宿在家Ⅱ遺跡出土遺物（かわらけ・陶磁器片）	13～15世紀	安中市教育委員会
82	松井田城出土遺物（陶磁器・かわらけ・火鉢・擂鉢・内耳土鍋・砥石・古銭）	中世～近世	安中市教育委員会
83	内出城出土遺物（陶磁器片・古銭・かわらけ）	中世～近世	安中市教育委員会
84	安中城Ⅰ・Ⅱ出土遺物（かわらけ）	中世～近世	安中市教育委員会
85	板鼻城出土遺物（陶磁器片・火鉢・古銭・かわらけ・茶臼・石臼）	中世～近世	安中市教育委員会
86	後閑城出土遺物（擂鉢・火鉢・陶磁器片・かわらけ・砥石）	中世～近世	安中市教育委員会

発　行　日
編集・発行

憲が此図を見て、「苻川行貞の画する所うたがいなしとて褒美を遣わす」とあり、本図の製作者が苻川行貞と伝えている。大手の下に横２丁斗、竪８丁と城下町を記入する。又、加藤図のみ、本丸西の郭に井戸が描かれている。古城図巻（武州上州信州）に慶長１０年滝川左近図と伝える上州平井詰城図が伝来するし、類似のものが散見するが、高石垣や３基の２重櫓、石垣枡形虎口が描かれる等、描かれているのは近世城郭であり、峻険な山城遺構である平井金山城とは思えない後の写図である。天正の織田家滝川一益の支配にかんがみ、当然、新領地を調査したという仮定で作成された、現地を見ずに伝来したものと思われる。

参考資料　西平井旧城図　文化１３年（１８１６）西ケ谷泰弘氏所蔵

藤岡市西平井、平井城本城図である。作者藤原正治は甲州流軍学者加藤正治であり、文化２年小笠原家を辞し、江戸に居住、文政１３年に本丸の文殊院長老の案内で踏査した絵図である。武江鷺森　松戸軒と称している。絵図の冒頭に巻之八、図集第九ノ二とあり、加藤正治は古城絵図集の編纂をしたと思われる。金山の説明があり、「此古城別図アリ」と記されている。此の別図こそ、上野平井図であり、実に２００年後の再会となる。笹郭については、絵図作成後、東平井高山重邦の指摘で笹郭については赤筆で新クルワとして追加している。現状と比較するに、本丸に文殊院本堂、東、北虎口東側に土塁、南は断崖、土塁の周りに空堀、土塁のない北虎口西側には水堀が記入され、二重の堀さらに東断崖に二重の竪堀が見られる。本丸東の腰郭も現状に一致する。ただ、特徴的な現状遺構である本丸西土塁が描かれていない。二ノ丸には南、西に土塁があり、本丸二の丸間の堀は埋められ文殊院の参道となっている。二の丸、新郭間の堀も埋められている。新郭の空堀、外郭の堀も描かれており、外郭内は西平井村両側家続きとされ、外郭虎口は大手とされている。今から２００年前の城跡の姿である。

箕輪城絵図

箕輪城は榛名山東南に位置する台地上に長野氏によって１５００年頃構築されたと伝える。平井城廃城後は西上野の支配拠点であり、長野業政生存中は武田の侵略から西上野を防衛した。永禄９年１５６６年武田信玄により攻略された。支配は武田、織田、北條、徳川と変わり、井伊直政１２万石の居城となったが、慶長４年１５９８年高崎に移り、廃城となった。現在の壮大な遺構は１５９８年の発達した縄張である。縄張の変遷については早くに『箕輪城考』福島武雄の研究がある、絵図は江戸中期の現地を正確に踏査した箕輪城研究基本調査図である。曲輪の東西寸法、高低、井戸、土塁、空堀、水堀、石垣、通路、虎口構造を正確に描き、遺構の意味を判断できる軍学者によるものと思われる。台地上に本丸、御所曲輪、大堀切、角馬出、台地下は西断崖下白川に面して、竪堀、虎口、鍛冶曲輪、枡形虎口が描かれ、北に空堀、東の水堀が巡る。南にはあった椿沼はすでに埋め立てられ、蓑輪町、同裏町が城下町として立体的に描かれる。城の南は尾根が２つに分かれ、曲輪が連続するが、間に創建が明らかでない法峯寺が描かれ、蓑輪町との間に東へ北国猿ヶ京へ、西は中山道板鼻へと記される。曲輪配置は現状遺構と一致し、江戸期の遺構がほぼ現存する優れた古城跡である。

箕輪城絵図として、各地に伝来するものは３種あり、１は焼失した旧参謀本部所蔵『城塞繹史』収蔵上州箕輪城図と浅野文庫諸国古城図の上野箕輪である。本図も現地を実査した絵図で、富原文庫本箕輪城絵図との違いは調査者の力量によるもので、浅野文庫本は矢守一彦によって、宝暦―寛政１７００年代後半の編纂とされている。原図の作成時期は不明である。浅野文庫本には本丸、御前曲輪、道中曲輪、蔵屋敷、カチ曲輪、大手口等が描かれ、城下町は記載されない。城塞繹史本は中山光久写図に本丸、御前曲輪、通仲曲輪、二ノ丸、木俣、松下等描かれるが、原図が焼失しているため、確認できない。２は上野国箕輪城之図である。本図は軍学上の箕輪城基本図として、各地に伝来しているが、概括的に南の両側尾根、東北の外郭が見て取れ、大小馬出、埋門が描かれるが、内部の曲輪構成は現地を反映できていない。国文学研究資料館城築規範、国立国会図書館志摩藩伝来日本古城絵図、３は永野信濃守居城（長野）と伝える古城跡目２５城「此図天正１０年夏滝川一益森長一誌之者二凡三百五十図内也」の内、上州群馬郡箕輪城主也とあり、３重天守、２重櫓３基。城門４か所、丸馬出を描くが。現存遺構と一致しない。織田政権の上野支配になどらえた仮想絵図といえる。

伊那伊豆木小笠原家甲州流軍学者加藤正治古城絵図　平井詰城　真田上田城

加藤正治が寛政７－１１年、現地調査した伊那谷の古城１１か所と信濃の９か所、上野の平井詰城絵図、甲州の５か所、遠州の３か所、武州の滝山城等３０城の絵図である。ただ、３枚の内とか記入され、１枚のみ残された絵図もあり、元の絵図は数倍に及ぶものと思われる。しかしながら、伊那の現地調査は２１０余年前の近代以降消滅する前の遺構を明らかにしてくれるほか、軍学者から提供され集めた城絵図も現地を考えるとき、非常に精度の高いものである。絵図の選択も武田の躑躅が崎、新府、石水寺要害山と見事に要点を押さえ、要害山は他に類例を見ない。平井城、高天神城、滝山城と素晴らしい城跡が収録されている。今回紹介の上田城絵図は現存遺構と全く異なり、なぞに満ちている。現在の上田城は関ケ原合戦後、徳川氏に依って徹底的に破壊され、廃城となり、寛永３年１６２６年新築されたものである。真田の上田城は織田の安土城、豊臣の大坂城と同じ命運をたどったと思われる。加藤正治の調査した２１０余年前は新上田城に真田の上田城は埋没していたわけで、当時といえども、真田氏上田城はすでに未知の遺跡であったと思われる。絵図の作者は服部直方とされ、城図は真田幸隆の代に築城、西向き大手の平城、東は切岸とされ、以下上田城の履歴を記述する。今、絵図の審議を確認するすべはないが、真田幸隆の上田城絵図は他に類礼を見ない。

笛吹峠合戦

天文 15 年 1546 年上杉憲政の碓氷峠（笛吹峠）合戦を描いた。後方に笛吹峠、浅間山が描かれ、戦いは信州側で行われ、上杉側は本隊 16000 人、右翼 5000 人、本隊に前橋、五閑、沼田、館林、忍、白井、膳、倉賀野、右翼に安中、小幡、松枝、和田等が参戦している。武田方は武田信形を将として 7000 人、信形外 12 将。晴信後に来勢 4500 人とし、真田、飯富、小山田を前衛、山本勘助を本陣に据えている。戦いは武田の勝利としている。

古城図　全３６図

紀州藩江川景壽作、寛政８年１７９６年近藤孝矩写、文政１３年１８３０年嘉知写による古城図集である。「此１巻古城三十六者城取縄張之善悪考修行可致」とあり、軍学の目的で編纂された。全国の中世城館が収録され、上州では箕輪、松枝がある。他の城絵図については、現状を思わせる物があるが、残念ながら上州松枝（松井田）城絵図は「北條家大道寺駿河守居之」とされるが、そこに峻嶮な松井田城の姿はなく、描かれているのは平城であり、架空の絵図と言わざるを得ない。

春日山古城之図

春日山城は上杉の本城として栄えたが、上杉氏の会津移封後、慶長 12 年 1607 年堀氏の上越沿岸平野、福島城築城に依って廃城となった。絵図は鳥瞰図として、最盛期の春日山城を描いている。地形は現状遺構と整合しており、現状地形に基き、建築や武将屋敷を想定したもの。城下に足軽町、鉄砲町があり、御館城外流失とあり、山麓居館の存在が想定される。曲輪配置のみの絵図も多く残存する。

信玄公古城之絵図

武田信玄の躑躅が崎館絵図は各時代のものが多く伝来するが、本図は主郭（西曲輪含む）と出城（梅翁曲輪）のみのを描き、味噌曲輪、隠居曲輪構築以前の絵図である。主郭を東西に分離する石垣や堀から 8 間離して殿主の土台、主郭内堀を経た西曲輪南北の境界土塁、曲輪内の高低、土塁高さ、堀内の水の有無、虎口広さを描く。主郭東虎口と西曲輪から出城へ出たところを石垣で遮蔽している。

安中城攻之図

土塁、空堀に区切られた本丸に安中左近、二ノ丸に安中民部が記入され、方形の外柵、四方の木戸が描かれて

いる。方位は町屋の方向が南、碓井川に面し、周囲に妙義山と武田の武将が配置される。郭配置は描かれた当時すでに近世安中城が構築されており、中世安中城を現地で推察するすべはない。四方の城柵も類似の箕輪城絵図や花沢城絵図にも同様に描かれており、軍学上の絵図の書式と思われる。大手碓氷川に面し、橋を挟んで城内側に安中外記、武田側に原美濃、甘利左衛門 1200 騎が鉄砲、弓隊、小荷駄を備え、九十九川は描かれていないが、東北に曽根七郎兵衛、西北に小幡上総が陣取る。

陣立図巻（仮）上州前橋攻め、相州小田原攻め

海野平合戦、川中島合戦、上州前橋攻め、相州小田原攻め、天正 19 年奥州九戸陣の陣立図である。特に永禄 12 年 1569 年武田信玄 25000 人の小田原攻の詳細な陣立はほとんど知られていない。39 x 280ｃｍに及ぶ陣立には武将名、騎兵数があり、先陣に安中左近 150 騎とある他、内藤、小山田、保科、四郎（勝頼）、諏訪、板垣、原、中心に旗本衆、浅利、長坂、典厩、小荷駄奉行、後塵に山県、真田、小幡等 32 名の武将と旗本、各武将別に 4071 名の騎兵数が記入され、当時の兵力を伺うことが出来る。前橋攻めは永禄 6－11 年頃、武田信玄が北條氏康と連携し、城下に放火した際のもので、陣立として右先に小幡、左先に安中越中守、2 の手、中手、本陣、後備の武将、鉄砲大将、弓大将、馬印、使番、旗、太鼓が記入されている。

甲陽軍鑑攻戦地理之図

甲陽軍鑑に描かれた武田氏活躍の街道、宿場、城、山、峠、合戦場を鳥瞰的に描く。甲州、上州、信州を中心に周辺地域に及ぶ広範囲が描かれ、上州では三寺尾合戦、三日尻戦場が描かれる。

図蹟抄遺

甲陽軍鑑に基き、城塁、戦場の遺跡を記録した古戦場図集。陣法後学、藤良材という軍学者が、各地を遍歴し、宝暦 12 年 1762 年に編纂したものである。簡略ではあるが、信玄にかかわる 39 合戦が収録され、上野国の三寺尾合戦、ミカシリ原合戦、中之条村周辺、新田足利、中上野上杉北條争地等 6 図も含まれる。

近江国蒲生郡安土城図

本図は 2002 年 8 月『富原文庫蔵安土古城図』として刊行した。類似の総見寺所蔵安土古城跡之図、国会図書館や柏原藩所蔵図、文化文政頃とされる三井文庫、所蔵先不明の大正期の写し、淡海温故録収載図を紹介した。本図と総見寺図は貞享 4 年 1687 年、絵図には天正 10 年 1582 年の信長逝去後 906 年と記録されている。天正 4 年織田信長築城安土城を知る唯一の絵図である。三井文庫図を除き、作者は書かれていないが、現存遺構とよく整合性がある。今は整備された城跡であるが、江戸期は後の施政者によると思われる城割、城跡の破壊が実施された。本図も残念ながら破壊後、埋没した城跡の姿である。現在、本丸から北へ通じる虎口は昭和 40 年頃訪れた際は石垣で人為的に閉鎖されていた。多くの石垣の天端は崩されていた。大手道も総見寺の移築の際、閉塞されていた。名護屋城を思い浮かべていただければ、江戸期の安土城が蘇る。近江名所図会や明治期の安土の絵図は総見寺の伽藍以外は墓所とその参道が通じるのみである。現在の整備された城跡は信長時代に近づこうとしているもので、決して伝来し、残された城跡の姿ではない。本図は正確に江戸期の破壊された安土城の姿を伝えている。

信州伊那郡大嶋古城図

元亀２年１５７１年武田信玄によって大改修され、武田式築城の原型を伝える城跡である。天正１０年１５８３年織田氏の武田攻め際は安中氏も在城していた。

信州高遠城図

高遠城は伊那市高遠町にあり、三峰川と藤沢川の合流点、台地上に天文１６年１５４７年武田氏が山本勘助の縄張により構築、巨大な空堀を巡らせた平山城である。天正１０年１５８３年武田信玄の子、仁科盛信の際、織田信忠５万の大軍に迫られ落城した。城は保科氏、鳥居氏を経て、幕末まで続き、内藤氏３３０００石の居城で廃藩置県を迎えた。

武州上州信州古城絵巻（仮）四十二城、古城跡目二十五城

此図者天正十年夏滝川一益、森長一誌之者二凡三百五十図内也、25 城図があり、又、滝川左近、森庄蔵の作成とある古城 42 城の絵図集である。前者に**永野信濃守居城、倉ヶ野**城、後者に加えて、**五閑城（後閑）、上州平井詰城、板鼻城、古屋刀城（松井田）**とあり、極めて興味をそそられる。あたかも天正 10 年上州を与えられた滝川一益が新領地を調査したように想定されている。倉賀野城のように烏川に面した断崖上に配置された曲輪が絵図に地形として似ているものもあるが、平井城、箕輪城、松井田城等大半は現地遺構と整合せず、城絵図として慎重な検討が要求される。

豊臣大坂城本丸図

昭和 12 年桜井成広によって、**陸軍築城本部本邦築城史編纂委員会保管偕行社所有**図が発見され、豊臣大坂城と信じられてきた現大坂城が徳川の元和修築によるものであり、地下に豊臣大坂城が発見されるきっかけとなった絵図である。原図は焼失したが、桜井成広による写真や写し、多くの復元図が残された。本図は山鹿流秘伝書城塞繹史の収蔵図で軍学の調査図であった。後に大工頭中井家から 2 枚、浅野文庫諸国居城之図に収録されているのが判明した。今回初公開の絵図も他の城郭図とまとめて発見されたもので、簡単ではあるが、5 枚目、現存 4 枚目の豊臣大坂城本丸図である。

駿府城絵図

天正１３年１５８５年から１７年駿遠三甲信５か国を領有する徳川家康が構築した駿府城であるが、翌年、小田原の陣の後、関東に移封された。慶長には再び、徳川江戸城の守りとして、大坂方に備え、幕府の天下普請が実施され、家康の隠居城、さらに、松平忠長等が城主となるが、寛永１０年１６３３年以降は城代が置かれ、幕末まで幕府の直轄地となった。本丸、二ノ丸、三の丸の３重輪郭式城郭であるが、明治２９年１８９６年本丸堀は陸軍によって埋められ、以降、二ノ丸、三の丸堀のみが残る。小田原攻めの際の徳川家康の拠点である。

山中陣図

小田原征伐の際の山中攻めを描いた絵図。山中城は箱根山西麓、小田原防衛の要に位置し、小田原征伐に於いて、北條氏の前戦防衛拠点となった堅塁である。天正１８年１５９０年３月２９日の秀吉軍の主力秀次の攻撃の前に半日で落城した。発掘調査で畝掘、障子堀が出土するなど、４００年埋もれていた城の規模、構造が観察できる優れた遺構である。

天正十八年松山城攻めの図

天正１８年小田原城攻めの際の北国軍の松山城攻めを明治頃描いた推定鳥瞰図ではある。絵図に描かれた曲輪配置は極めて正確であり、現地遺構調査の上、鳥瞰図を作成したうえで、天正１８年の籠城の様子や、北国軍の配置を描いたものと思われる。人物や建物、旗指物、城柵、空堀、切岸、木橋、陣幕、物見台、城門、狭間のある城塀、弓矢、槍、鉄砲、武器の手入れや木橋を外す様子まで描かれている。優れた研究家の作品と考えられる。攻め手には前田利家の鉄砲隊、上杉景勝、真田昌幸、大谷吉継、杉田修理太夫、杉田助左衛門が見える。もう一枚の『武蔵国松山城天正之役図』に詳細の書き込みがあるが、紙質絵具等本図の方が古式である。天正之役図には前田利家軍案内松井田衆、上杉景勝直江山城守案内大道寺政繁ら松井田衆、大谷吉継、真田昌幸、小笠原勢、

毛利豊前守が見え、城内に１のくるわ、大将難波田因幡守、副将木呂子丹羽守、城代山田伊賀守、軍監金子紀伊守、軍使遠山正輔等、以下、２のくるわに７名、３のくるわに７名、兵糧曲輪、広沢曲輪に３名、外くるわに１名、春日丸に４名、其の外１２名の武将が姿と共に描かれる。又、滝不動が見え、山裾を市ノ川が巡る様子がある。説明に「天正１８年豊臣東山道軍は上州松井田城を降し、降人を先駆けとして、７万の軍勢に包囲された松山城」とあり、筑峰庵松童と署名朱印がある。

武州鉢形城古図

埼玉県寄居町の鉢形城は永禄年間北條氏邦の城として整備され、武田や上杉との戦場となる。天正１２年１５８４年後北条氏によって大改修された。天正１８年１５９０年６月上旬小田原征伐の際、北国勢等５万余騎の軍勢に囲まれ、６月１４日開城した。絵図はその際の陣容を描いている。

慶安元年１６４８年武州八王寺古城（南多摩郡元八王子村城山古図）

永禄１２年の１５６９年の武田信玄小田原攻めの際、滝山城が落城寸前まで追い詰められ、北條氏照が天正１３年１５８５年頃、滝山城からより峻険な本城に移住したといわれる。天正１８年１５９０年小田原攻めの際、北国軍により落城、廃城となった。江戸時代の八王子城跡は幕府の直轄地となり、御林山として入山禁止となり、明治まで遺構はそのまま残された。絵図は「狛江村和泉石井干城君所蔵図より謄写す」とあり、今も現存する石井家絵図を昭和２４年公園緑地課史蹟係が写した物である。

天正年間忍城図

忍城は１５世紀後半に構築された水に囲まれた平城である。天正１８年１５９０年城主成田氏長は小田原城に詰め、石田三成を総大将とする忍城水攻めが展開された。６月初めから始まり、小田原開城後の７月１４日に開城した。映画のぼうの城の舞台である。

上州群馬郡前橋城

天正１０年の徳川家康の関東入り以降、平岩、酒井、松平と続いたが、水害火災により、川越へと移り廃城となった。町民の願いにより再度前橋城が構築されたのは幕末、元治元年１８６４年であった。本図は此の際の前橋城絵図で曲尺２分１０間の実測図である。正確さは明治１１年作成の前橋市街地図ともよく整合する。御本城、二の御丸、３の御丸、車橋御門、大手御門、新制三日月御門、柿の宮口御門、坪呂岩御門、ウツム御門柳原口、櫓台１３基、枡形、馬出、古土居、九大堀、阿弥陀山、新制橋とある、各地に新制とあることから、元治元年当時の絵図と思われる。

上州沼田之図

天和元年 1681 年真田信利改易領地召し上げに伴う、翌年正月の城は破却され、堀も埋められた。本図は破壊前の城下町絵図を天保 3 年 1832 年に写した絵図である。城内の構造は天守、櫓 3 基が描かれ、特筆すべきは城下全体にわたり、武家はもとより、町人の一人一人の名前が住居位置に明記されていることである。幕府への引き渡しの為、細密に記録されたと思われるが、町人まで明記された城下町絵図は皆無である。城は天領となり、後、本多家 2 万石として再興され、黒田、土岐と続き沼田藩庁とされた。

上野国館林城全図

岡山大学池田家文庫所蔵貞享５年１６８８年７月の上野国館林御城図と図形はほぼ同じであり、同時期のものを描いた、いわゆる近世前期館林城図である。徳川家綱の子、徳松が夭逝し、天和３年１６８３年館林城は廃城となった。宝永４年１７０７年再築された館林城は近世後期館林城と分類されている。特に外郭の構造が大きく

変わることに成る。館林藩は多くの大名の交代、城番時代が繰り返された。

以上の画像はすべて図録に収録されていますので、省略します。図録は4月19日販売予定です。

博物館事業報告

1・高天神城絵図調査

パートナー産業さんの復元ジオラマ第2弾高天神城の参考として、所蔵絵図を調査した。

1・伊那伊豆木小笠原家家臣加藤正治寛政年間の調査図『遠江高天神』 ２８ｘ３５ｃｍ 「城地海道ノ南二当ル。甲州方縄直シタル図今ハ廃城ト成テ如此 今川義元領ノ時福島上総介政成徳川領ノ時小笠原与八郎長忠武田領ノ時番手城タリ」と記される。

2・『遠州高天神城図』 ４４ｘ５２ｃｍ 空堀をピンクに描く 本丸に天神図、東に要目曲輪、西に西丸、間北大谷に裏門、南に本丸から大手口、谷深さ五三間、主要郭に大きさ記入

3・『遠江国高天神城図』 ２８ｘ３９ｃｍ 基本２図と同系の軍学図 記載は天神ノ社、コシ郭、西ノ丸、大谷、水ノ手、南のみ、水の手は西の丸西降りたところに記載。

4・『高天神之城』 ２５ｘ３２ｃｍ 基本２図と同系の軍学図 記載は２図ト変わらず、郭の周りに土塀を描く。 虫損有補修済

5・『高天神城栗田氏古図』 ４１ｘ５６ｃｍ 「高天神城戦史ヨリ写ス、天正２年夏６月開城当時、昭和４３年戊申３月林隆平之写ス」とあり、城郭研究家林隆平氏の模写図である。同氏の描かれた関連資料は古書市場で一括収納している。昭和１０年増田又右衛門『高天神城戦史』６５頁及び昭和４４年同復刻本５９頁には、元図が線画で収録されている。これを着彩されたものであるが、穴を牢とされるなど、間違いや省略も見受けられる。なお、同書には栗田氏について小笠郡中内田村平尾八幡宮神職とし、栗田氏古図として高天神城山平面図や城東郡高天神近郷並砦之図が収録されている。同時に基本２図と同様の高天神城之図が記載されている。２－４は高天神城軍学絵図の基本と考えられる。

6・『高天神之城図』 １５ｘ１８ｃｍ 遠江国風土記伝収載図 木版 諏訪原城とともに木版で出版された。２－４図と大同小異である。

7・『遠州高天神古城』絵図写真、原図の収納先が記録されていない。２－４図と同様。

8・『高天神山城』 本田昇縄張図 １９７３年 １２５０分１ ３８ｘ５３ｃｍ

9・『遠州高天神城趾要図』 国学院大学城郭研究会 ６３ｘ８５ｃｍ 青焼き

10・『5000分1実測図』 高天神城周辺地形図 ９８ｘ１０８ｃｍ 青焼き

富原文庫収蔵絵図地図は以上であるが、調査の結果。

類友山下和正氏は高天神図を所蔵されている。５８ｘ５２ｃｍで作者、年代は記されていないが、コシ郭に小笠原与八郎曲輪とあり、絵図には北の大谷に鳥通らず故に橋を架けたり、西の丸２か所に櫓台、各郭に本丸との高低差記入されるなど実査された絵図と思われる。弘前藩の城築規範や前田家育徳会の諸国居城図には高天神城は収録されていない。国会図書館諸国古城之図は未確認である。

関連図書と収載絵図

戦前不明 『高天神城史抄録』著者、年代とも未記入、内容は戦史。８頁。

昭和１０年『静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告第十集』静岡県 史蹟の部に高天神城趾収録
鷲山恭平・増田又右衛門 栗田氏絵図二枚カラーで収録
『高天神城戦史全』増田又右衛門、増田実 栗山氏所蔵絵図すべて収載。

昭和３８年『高天神城阯案内』増田実 小冊子ながら栗田氏所蔵絵図すべて掲載。

昭和４１年『高天神城の話』増田実　小冊子
昭和４３年『高天神の跡を尋ねて』藤田清五郎
昭和４４年『高天神城戦史全』再版　増田又右衛門、増田実　栗山氏所蔵絵図すべて収載。
昭和４６年『大塚薬報』収録古城めぐり第１５０号　藤崎定久　高天神城要図収録、昭和５２年『日本の古城５補遺西日本』に再録。
昭和５２年『高天神城の譜』嵯峨瑞祥
昭和５４年『古城を尋ねて二遠州高天神城』見崎鬨雄　遠州高天神城図加賀前田家所蔵元禄１０年写図を模写江崎俊平と記された絵図を収載する。伊賀曲輪、御殿、御前曲輪、岡部丹後曲輪、せいろう櫓、赤根ヶ谷口、池ノ段等の特徴ある記載がある。前田育徳会尊経閣文庫所蔵『諸国居城図』には高天神城は収録されていないため、原図不明である。
昭和５６年『浅野文庫蔵諸国古城之図』遠江高天神　絵図収録
信玄陣取、権現様御陣城、本城、西城、小笠原与左衛門曲輪、水溜記載。
昭和５６年『あやうし高天神』清水達也　小説
昭和６３年『高天神の跡を尋ねて増刷版』藤田清五郎
平成５年『高天神城の総合研究』小和田哲男　大東町教育委員会
平成５年『遠州高天神城実戦記』　本多清定著鵜籐満夫訳
平成８年『史跡高天神城跡保存管理計画策定報告書』大東町教育委員会
高天神城跡地形測量縄張図・周辺地形測量縄張図・周辺地形測量図作成
浅野文庫諸国古城之図から遠江高天神をカラーで収録
平成９年『秋風高天神城』　三戸岡道夫　小説
平成１１年『史跡高天神城跡基本整備計画策定報告書』大東町教育委員会
平成１６年『史跡高天神城跡―二ノ丸ゾーン発掘調査報告書』大東町教育委員会
平成２１年『高天神攻城戦と城郭－天正期徳川氏の付城を中心に－』土屋比都司　中世城郭研究第２３号抜刷　平成２０年作成高天神城縄張図及び陣城縄張図多数収載。
以上の結果、特徴的な絵図、つまり、単なる写しではなく、現地を調査した江戸期の絵図は甲州流軍学者加籐正治の１遠州高天神、山下和正氏所蔵高天神図、浅野文庫所蔵遠州高天神、栗山氏所蔵高天神城古図、江崎俊平氏模写前田家絵図の５絵図となる。栗山、江崎絵図は現物未確認である。

2・西尾市教育委員会岩瀬文庫依頼西尾城絵図調査

調査の結果、オリジナル資料は陸軍省城絵図西尾城絵図のみ。主図合結記巻2には、西尾城が収録されているため、15種の主図合結記から西尾城10枚ほど抽出。絵葉書は3枚のみ。刊行資料は下記の通り。

西尾私史　菅孝三郎　大正４年　西尾城郭図折込
西尾城郭図録西尾城郭覚書　東海古城研究会　昭和４１年孔版印刷復刻
西尾城城郭城下町　西尾市史史料Ⅱ　**15枚の城郭絵図**収納　昭和４６年非売品
西尾城天守調査研究報告書　昭和５９年　西尾市教育委員会
江戸時代の城下町西尾　平成５年　西尾市教育委員会　**城郭図 29 枚収納**
西尾城西尾藩　平成６年　西尾市資料館　**西尾城図5図**収録
大給松平氏と西尾藩　市制 45 周年記念特別展　平成 10 年　西尾市資料館
大給松平氏と城郭絵図　西尾市資料館　平成１３年　**西尾城絵図13図**カラー収録
鶴城記・西尾城由来記　西尾市岩瀬文庫叢書３　平成１３年　西尾市教育委員会　**西尾城郭覚書**

カラー収録16図

西尾城下町ガイドブック　西尾市資料館　平成１４年

大給松平氏と西尾藩付西尾城郭城下町　平成１６年　西尾市資料館　西尾城郭覚書カラー収録１６図

大給松平氏と城郭絵図―西尾市資料館所蔵の城郭絵図　平成１９年―２０年展示会パンフレット　Ａ４両面１枚　表に**西尾城絵図３枚**収録

西尾城Ⅰ－遺構―　平成 20 年　西尾市教育委員会

西尾城Ⅱ－遺物１－　平成 22 年　西尾市教育委員会

西尾市歴史公園案内記　ガイドブック写真集　刊年・刊行者未記

城郭建築行脚第８１回伝・西尾城の遺構　高田徹　刊年未記

昭和８年、29 年市街地図所蔵。城郭文献、城郭図集、各地所蔵絵図未集

陸軍省城郭存廃絵図　三河西尾城絵図（仮）　富原文庫所蔵

113x82cm　平地坪数・土居坪数・堀坪数・道坪数・古籍扱所坪数・貫属屋鋪坪数・総坪数・松木本数　水・土居・平地道・神社・貫属屋敷色分け　本丸に 450 坪、3 重櫓 1 基、2 重櫓3基（1は多聞）、櫓門2基（1は本丸裏門）、八幡神社。二の丸に 1250 坪、3 重櫓1基、2 重櫓1基、櫓門1基、城門 1 基、本丸東、北に土橋、本丸周囲、土橋城外側に土塀、本丸東土橋に埋門、本丸東郭に 2 重櫓、城門、大手方向に内喰違門、米蔵、神明社、番所、城郭全体を描くも上記以外は粗略。　年代は明治 5 年 3 月から 8 月　作成は明治政府陸軍省築造局

3 月 14 日調査撮影来場、陸軍省西尾城、岡崎城。主図合結記西尾城１０種、西尾絵葉書等

3・西ケ谷泰弘氏所蔵『西平井旧城図』考証

日本城郭史学会の西ヶ谷代表から『城絵図に見る上州の戦国時代』展示に際し、平井金山城と合わせて、展示したく、平井本城絵図の貸与を依頼し、画像を提供いただいた。調査の結果、非常に面白いものであった。筆者の藤原正治は先に長野県城絵図展で紹介した伊那伊豆木小笠原家家臣、甲州流軍学者加藤正治が文化２年小笠原家を辞し、江戸麻布に居住してから文政１３年４月１９日に本丸にあった文殊院長老に案内され踏査した際の絵図であった。武江鷺森　松戸軒藤原正治と称している。

絵図の冒頭に巻之八、図集第九ノ二とあり、加藤正治は上京後古城絵図集の編纂をしたことをうかがい知ることが出来る。富原文庫の３０図にも多くの絵図の存在をうかがわせる、４図の内とかの文字があり、１枚しか残されていない絵図が多くある。膨大な量であり、業績である絵図集は発見されていないが、絵図の細密な精度と作者の鑑識眼から発見されれば、学会に役するところ非常に大きい。

金山の説明があり、「此古城別図アリ」と記されている。此の別図こそ、今回公開する加藤正治著上野平井図であり、実に２００年後の再会となる。

本城の調査に際し、加藤正治は非常に細密な調査を行い、笹郭については、絵図作成後、東平井高山重邦に見せたところ、寸分相違なしといわれたが、今、笹郭といわれているところを見損なっているとの指摘があり、赤筆で新クルワとして其の教えのまま付け加えている。彼の真摯な調査態度がうかがい知れる。

現在の実測図と比較するに、本丸に文殊院本堂、東、北虎口東側に土塁、南は断崖、土塁の周りに空堀、土塁のない、北虎口西側には水堀が記入され、発掘調査によって明らかとなった二重の堀が明記され、東断崖に二重の竪堀が見られる。本丸東の腰郭も現状に一致する。ただ、特徴的な現状遺構である本丸西土塁が描かれていない。絵図の精度からはあり得ないことであるが、疑問が残

る。二ノ丸には南、西に土塁があり、現状と一致する。本丸二の丸間の堀はすでに埋められ文殊院の参道となっている。今の県道である。二の丸、新郭間の堀もすでに埋められている。絵図には新郭の空堀、さらに外郭の堀も描かれており、県道の位置でそのまま外郭虎口までつながり、外郭内は古屋敷、今、西平井村両側家続きとされる。外郭虎口は大手とされている。文化１３年１８１６年今から２００年前の城跡を今に詳細に伝えてくれる。

4・一般財団法人　地図情報センター　季刊誌地図情報連載開始

ご依頼により、平成２６年５月、地図情報ＶＯＬ３４－ＮＯ１から、地図関連記事を連載します。編集長は東京古地図倶楽部の清水靖夫先生です。第１回は『日本最大規模で実施された幻の城郭調査―明治政府陸軍省築造局城郭存廃絵図（陸軍省城絵図）－』として、始めて城郭研究会以外で一般に紹介します。

5・加工技術研究会　月刊誌コンバーテックのこれまでの連載は

１・コレクターの心意気　２・文庫設立と活用　３・コレクターの世界　４・八重の桜と会津城下町屏風の発見　５・コレクターの時間軸　６・地域活性化に思うこと　７・コレクションの始まり競りと入札まで　８・結果の出た事実が歴史　９・治に居て乱を忘るな　１０・城に見る夢　１１・印刷に魅せられて　１２・幕末の美　錦絵　１３・１年の計、さらなる希望へ　１４・井蛙の積み重ね自覚が新世界へ　１５・過去が記録される骨董市場と印刷　１６・豪雪に思う歴史の走馬灯　１７・天空の城　竹田城　城ブーム到来か

ちなみに１７は２０１６年５月号掲載です。また、１５は英字紙に転載されました。

6・安中市発祥地である安中市原市町町長桜井家文書525冊と桑折5ケース数千通の古文書を4月、安中市教育委員会にお貸しすることにしました。

量が膨大なため、将来分散して記録が失われるのを危惧し、原市町古文書を所轄文化財機関にお貸しします。原市町行政資料１０８冊、他に皆無の前原用水資料３６冊、碓氷社の養蚕資料８７冊、安政年間水帳大冊１７冊、明治６年戸籍１７冊、寺社仏閣資料２９冊、江戸城焼失献金資料、安政地震献金資料、和宮御下向資料、異国船渡来資料等です。

7・会津若松城御3階絵葉書調査（依頼事項）

会津城本丸御３階は明治２年に戊辰戦争でなくなった会津藩士の埋葬とともに、七日町の阿弥陀寺に移設され現存している。御３階の本丸における映像は幕末から明治初期の古写真に探るほかないが、まれに、絵葉書として復刻されることがある。又、移設後の御３階跡の絵葉書ということであれば、御３階という絵葉書はないが、他の情景に現地が移り込む可能性がある。城内から月見櫓を展望した絵葉書のもう少し左側にあったと思われる。いずれにしても依頼者は細密な検証をされていることから調査を試みた。

会津城絵葉書約５００枚の内、天守１００枚、城壁、堀１００枚、城下、地図５０枚を除き、城内絵葉書１２２枚を検証

天守台、黒金門、各種３１枚（幕末天守除く）　本丸月見櫓３枚（城内疑わしいもの別に）

本丸廊下門内外３枚　本丸太鼓門４枚　本丸帯郭１枚　本丸西中門１枚　北出丸大手門内外８枚　その他７枚　セット物７種５９枚

本丸内絵葉書１３枚、　御３階の当時の図像が明確でないため、判定できないが、城内から月見櫓を俯瞰したものの、もう少し左に位置すると思われる。結論的に該当する絵葉書は見当たらない

が、依頼者に城内絵葉書１３枚のコピーを送付。

新収集情報報告

1・古絵図・古地図

神奈川県高座郡田名村全図　昭和３年１１月　３０００分１　石版　１１２ｘ１７４ｃｍ

山梨県南都留郡地図　明治４２年　４８ｘ６３ｃｍ

神戸沖観艦式諸艦船排列位置図　明治４１年１１月１７日　日本海員掖済会　３９ｘ５４ｃｍ

福岡都市計画街路網図　昭和６年　都市計画福岡地方委員会　７８ｘ９５ｃｍ

福岡市都市計画図　昭和１２年　福岡市都市計画課　８０ｘ１１０ｃｍ　青焼き　附設計標準図幅員別街路横断図面４種

陸軍士官学校作成日本中国各地地図15枚　サイズまちまち

陸軍軽重兵大林為策少佐偕行社編纂部勤務旧蔵資料

内わけ　　明治４２年仮製版再版**東京近傍1万分10枚**・２万分迅速地図１２枚・２万分２８枚・２，５万分１枚・５万７枚・輯成２０万６枚・帝国２０万２枚・特別大演習地図１３枚・昭和９年大山草鳴社２万・**明治42年帝国日本郵便線路之図**・**1万分1京都近傍図4枚組揃**・大正９年大分県中津町案内地図・陸地測量部出版地図一覧図昭和５年・**陸地測量部御発行地図一覧表明治44年**・明治奈良迅速図・陸軍特別大演習石川県地図・歩兵第三十三連隊１万分１猪子石村明治３６年目算測図・中国金州庁周辺測図３枚・中国昌図附近５万測図・大正１１年陸軍士官学校要図・陸軍歩兵学校習志野近傍図・水戸市宿舎要図８０００分・特別大演習地図と阪神電車線路図・陸軍将校生徒募集等資料５４点

寺社鳥瞰図一括　日光山両社大全図内題大日本日光山名所之図・相馬霊場八十八ヶ所手引図面・富士山北口全図大正１５年・**三山総絵図明治12年木版**・日蓮宗総本山甲州身延山細見新全図内題身延山全景大正１０年・日光山両社全図石版・**別格本山武州高尾山之全図内題武州高尾山境内全図**・千葉県下総国東葛飾郡船橋町延喜式内意富比大神宮明治２７年銅版

盛岡全図　明治４２年　非売品　石版　４０ｘ５５ｃｍ　表３色刷裏茶１色刷　表地図の周りに商家８２軒、裏広告２７軒

大正2年発行区域一覧図　陸地測量部発行地図販売元厚生堂相澤富蔵

測図記号　明治20年　陸軍教導団　２４ｘ３０ｃｍ

一覧図、図式についてはしろはく双書１号『富原文庫蔵地図一覧図地図図式編年目録１５０種４００図』『別冊主要図部分原寸見本６０枚』で明治２０年地図払下げ目録という一覧図の嚆矢を公開した。此の測図記号も図式嚆矢の可能性がある。

江戸町絵図（仮）　５１ｘ４６ｃｍ　木版色刷

大和国多武峯談山神社之図　３９ｘ５２ｃｍ　銅版　明治　速水春暁斎原画四方春翠再画

近吾堂版江戸切絵図11種

牛込市ヶ谷御門外地図全　内題牛込市ヶ谷御門外原町辺絵図嘉永４年

上水北小日向小石川辺図全　内題絵図　嘉永５年

改正小石川辺図全　内題小石川辺図　嘉永５年

再板小石川牛込小日向辺図全　内題小石川牛込小日向辺之絵図　安政４年

改正白山駒込辺図全　内題白山駒込辺絵図　嘉永５年

改正懐中駿河台小川町図全　内題駿河台小川町図　嘉永２年

改正雑司ヶ谷音羽辺図全　内題音羽目黒雑司ヶ谷辺絵図　嘉永４年
懐中永田町絵図全　内題永田町絵図　嘉永２年
改正大久保外山辺図全　内題大久保戸山高田辺之図　嘉永４年
浅草鳥越堀田原図全　内題浅草鳥越堀田原辺絵図　嘉永３年
表紙欠　内題青山長者丸辺之図　嘉永４年
大日本全図　明治９年　４９ｘ７１ｃｍ　銅版色刷
江戸絵図(仮)　明治元年再刻　７４ｘ９６ｃｍ　銅版色刷　大橋堂
大日本余地路程全図(仮)　嘉永２年　高柴英三雄　木版色刷　７２ｘ１３９ｃｍ
北海道北見国常呂郡常呂村鉄鋼試掘鉱区図10枚　昭和１２年　５千分１
大日本帝国全図　明治２８年　７３ｘ９８ｃｍ　銅版色刷
鹿島郡中野村大字中地図　１－１２５号肉筆地図帳
茨城県第11大区8小区常陸国鹿島郡奈良毛村地図　明治９年　５２ｘ７８ｃｍ
肥後熊本本妙寺真景全図　明治２３年　石版　４０ｘ５４ｃｍ
肥後熊本本妙寺加藤清正公御陵之真景図　石版　２８ｘ３９ｃｍ
江戸御見付略図　木版瓦版　３１ｘ４１ｃｍ
東亜余地図　明治３７年製図４２年印刷　１００万分１　中国、樺太地域２５枚

2･古文書･古典籍
東海道巡覧記　寛延４年著宝暦５年校合　和本横本　７９丁　木版　東海道始め全国の道中記
江戸町尽くし　文政４年　横小本　６２丁　木版
東海道名所図会石版縮本　全６冊　寛政９年本の複製　東陽堂支店
壇の浦軍記　陸軍用箋筆写　１７丁
行軍之次第　１０，５ｘ４８６ｃｍ　巻物　陣形図と１１８名の人員構成明記　行軍の際の詳細。
足下数年学　１８ｘ１８０ｃｍ　秘伝書巻物　中西流算術花押朱印
関ケ原陣難波戦記略誌　安政３年４月写　伏見桃山城之図・関ケ原石田陣立図・大坂石山城内諸将持口銘々図・大坂茶臼山陣取之図・新将軍岡山御陣・関東方諸将陣取場所旗指物記ス図等詳細
長崎土産　木版刊本　和装　幕末
信濃国里分高帳　寛延４年６月　１４７枚　横本細密
川中島五戦記　写本６冊揃い　安政２年
武田信玄画像　軸装　古画

3･印刷資料
昭和民芸紙譜全　和装本タトウ入り５冊　５００部限定　思文閣出版　見本紙張込多数
日本色名大鑑　昭和１８年　３０００部限定　全頁色見本
用途不明細密型　１５５ｘ２１５ｍｍ厚み３５ｍｍ　持ち手３０ｘ１４５ｍｍ高さ４０ｍｍ　鉄でミリ単位の細密な花柄を１０ｍｍの厚みで仕込んである。手で押さえる型であるが用途は不明。骨董

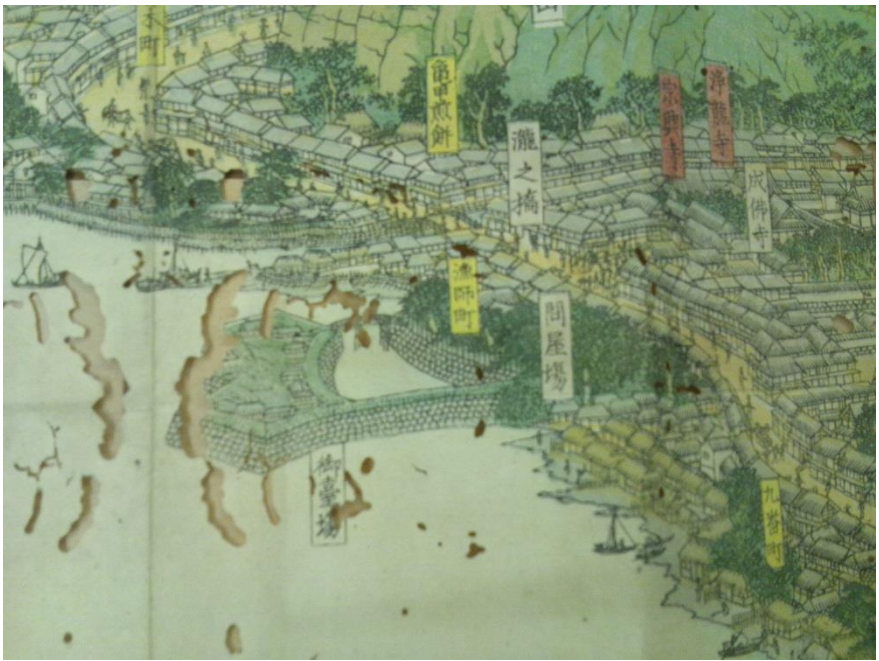
市場には今は消えた幻の印刷方法がまれにあるが、用途は想像できない。

4・錦絵・引札・双六・絵葉書

錦絵張込帳1冊150枚　3枚組16組1枚バラ102枚　豊国甲越の両軍川中島大合戦之図3枚の内右1枚・一ノ谷合戦源氏勝軍之図3枚続貞秀・御鳳車御出門之図3枚続周延・織田信長之像国芳1枚物・甲斐弐四将ノ内山本勘助晴幸入道道鬼内藤修理正昌豊芳房1枚物・山本勘助入道芳員1枚物・霞が関(仮)3枚の内1枚・川中島合戦信玄謙信一騎打(仮)周延3枚の内2枚・高松城水責之図芳艶3枚の内2枚・新羅三郎役者絵3枚続・畠山重忠役者絵3枚続他西郷隆盛等

なお、高松城水攻め図は６枚物を含め、各作者ほとんどを収納している。いずれ展示会でお目にかける。

世界夫人風俗双六　大正６年　５４ｘ７９ｃｍ　明石精一
少女はな双六　大正１１年　５４ｘ７９ｃｍ　新関青花・布目敏行
現代流行双六　明治４３年　５４ｘ７９ｃｍ　平福百穂
新子供飛び双六　大正５年　３９ｘ５４ｃｍ
婦人生い立ち双六　大正７年　５４ｘ７９ｃｍ　明石精一
肥後熊本戦地之図　錦絵鳥瞰図3枚　明治１０年　国政
西丸二重橋の図　延一　錦絵　明治２１年
五十三次名所図会三十九岡崎やはぎはし　広重　錦絵
御巡幸松本御通図　錦絵３枚続き　明治１３年　広重
楠正成金剛山千破窟の城を築く図　芳藤　３枚の内２枚　江戸版
桶狭間今川義元血戦　延一　３枚続き　明治１０年以降
清正オラン海より本邦を望む図　国政　３枚続き　明治版
義経十九臣之図　国満　３枚内１枚　江戸版



文治四年摂州大物浦難風の図　国周　３枚内１枚　江戸版

御開港横浜之図　増補再刻　安政６年　玉蘭斎貞秀　大判６枚虫損大

へいたいさん双六　昭和１６年１月１日　小学館

立川村十二景　版画　２１ｘ３０ｃｍ　立川村尋常高等小学校・駅前千本桜・立川駅前茶屋　馬場吉蔵　明治三十年代スケッチ昭和初期

5・軍事資料・武器武具

満州事変国防献品記念録　陸軍省　昭和８年　非売品　献品者一覧表写真等

武田流軍学全書　全３冊　昭和１０年　甲陽軍鑑他甲州流兵書１３編収録

陸軍作成と思われる戦前の茨城孔版印刷資料　吉野朝時代における常陸の戦史・志筑城及其付近の史蹟・徳川時代に於ける水戸城の価値・水戸城の由来及び戦史・幕末水戸の乱

匹夫之抄　兵器の巻　有沢武貞　宝永５年　嘉永４年写本富田矩貞　細密色彩本　１１０余枚の甲冑絵図を収載

図説西洋甲冑武器事典・図説日本合戦武具事典　柏書房

6・城

大坂城誌　全４冊　明治３２年　日本城郭誌巻首　小野清　図多数

築城学教程全　昭和11年改訂学生用　第５８３号　野戦築城・永久築城・付図７３枚付表５枚　近代要塞図のみ城郭図、古城図は含まれず

築城学教程巻1　昭和15年改訂第724号　陸軍士官学校　野戦築城・付図３図・附録図７７図

築城学教程巻2　昭和15年印刷第751号　陸軍士官学校　永久築城・付図４２図

築城学教程の編年については、関西城郭研究会『城１９３号国難の時代幕末軍事史から見た砲術と城郭（附・明治以降陸軍城郭研究編年史）』及び、再録した『古地図と城の泉３号』に所蔵１０９冊の編年を記載しています。その後の増加を含めて、現在１１４冊です。いずれ、陸軍城郭研究史を解明します。

多賀城碑拓本　原拓　９４ｘ１７６ｃｍ　多賀城碑拓本も多種収蔵し、かわら版のたぐいの資料はすでに、しろはく双書多賀城資料として公開した。

二条城明治 17 年建築資料

66号明治17年9月6日製図東脱帽化粧之間50分1之建図・東廊下平・5号御霊代之間及廊下南面・（無題菊紋入り御殿建図）・（無題2階建て御殿建図）・（無題廊下立断面図）・宮御殿廊下共東妻50分1之縮図同南面之縮図・（無題廊下立断面図）・第6号50分1建図（御殿図）・（無題石垣上御殿図）・（無題大広間建図）・50分1略図謁見所東物置謁見所南面・（無題廊下建図）・（無題広間建図）・第1号側面50分1之図御殿建図）・無題御殿建図　以上１６枚詳細修理報告書にて別途調査予定

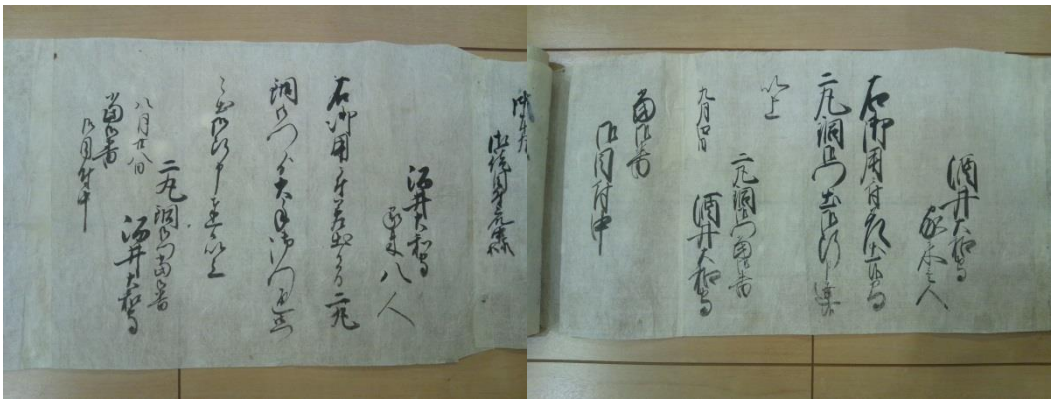
逆井城跡整備事業基本計画書　昭和６３年度　猿島町教育委員会

水戸城関連孔版印刷資料5冊　戦前軍部作成　幕末水戸ノ乱・水戸城ノ由来及戦史・徳川時代ニ於ケル水戸城の価値・志筑城及其付近ノ史蹟・吉野朝時代ニ於ケル常陸ノ戦史

御間絵図面　天保８年大書院年頭御流図・大書院一同御礼図・大書院玄亥図・大書院小役人より詰番迄図・大書院諸芸御覧之図外御小書院、居間等絵図１５図　肉筆横本細密　江戸城と思われる。

着物　希典征馬不前人不語金州城外立斜陽　明治羽裏

江戸城御門出入願書控　文化１４年９月　１２通　御門番より目付宛



御目付衆諸心得　文政１３年　横本細密

7･群馬郷土資料

桐生市著名商店案内商売繁盛双六　昭和１０年１月元旦　５５ｘ７９ｃｍ　振出から上がりまで３５駒に３５商店名キャッチ絵画電話番号、欄外に４店舗　色刷

富岡町勉強商家案内壽語録　銅版　明治３４年　５４ｘ７６ｃｍ　ふ里出しから上がり迄４５店舗　細密な銅版画で商店正面、看板、のれん等少佐に描く。　画工篠田□久

上野国四萬温泉之真景　銅版　明治２７年　３３ｘ４４ｃｍ　袋付

上州伊香保温泉場真景　石版　明治　４０ｘ５４ｃｍ　袋付　袋題全景

群馬県利根郡古馬牧村大字下明金銀銅鉛亜鉛硫化鉄鉱試掘鉱区図　５０００分１

伊香保温泉案内　上州伊香保鉱泉場名所全図･上州伊香保温泉元諧暢楼福田與重　明治３１年

第六拾七区上野国邑楽郡秋妻村　明治5年壬申11月致諸一筆限帳～大正頃　地租改正絵図中心段ボール３箱　未整理

上野国全図　内題上野国余地全図　安政２年　木版色刷　１０４ｘ１４４ｃｍ

大日本職業別明細図549群馬県　北甘楽郡碓氷郡　東京交通社　昭和１３年　安中町、松井田町、富岡町、下仁田町地図収録　安中町行政寺社商店６０件、原市町２８件、松井田町３４件等記入袋付

碓氷郡全図　国土計画調査研究会　昭和２４年　内山模型製図社地図部　５４ｘ７７ｃｍ

原市町全図　３７ｘ５２ｃｍ　刊記無　内山模型製図社

妙義山登山案内図　２３年１１月８日印　刊記無　３７ｘ５３ｃｍ　妙義旅館組合　２種

8･資料

大正頃上田関連資料　上田タイムス・東信週報・信濃衛生・上田高等助学校校友会雑誌・郎声・上田中学校校友会雑誌他上田関連大正頃チラシ５０枚段ボール１箱

勝海舟　民友社明治32年

海舟先生氷川清話全･続海舟先生氷川清話全　6版10版等4冊　明治32年

厚生省国立公園局作成全国国立、国定公園15か所計画案等国立公園制定厚生省資料

昭和２２年―３０年頃　高さ１４ｃｍ　但し、自然公園のみ、城跡公園含まれず。城跡公園については本多静六設計がある。

宇都宮こども博覧会　ポスター2種　栃木新聞社

瓦版　東都曲力持　一瓢亭芳信　３４ｘ４８ｃｍ

瓦版　安政元年12月28日　神田出火江戸大火　３０ｘ４５ｃｍ

瓦版　安政2年3月1日　小網町出火江戸大火　３０ｘ４５ｃｍ

水戸時雍館領収書　明治１４年　嘉永３年徳川斉昭創設野田郷校、天狗党の乱陣地

道中記　明治１４年伊勢・明治１２年市川・明治２０年磯部温泉・明治１４年伊勢・明治１８年塩原・明治２０年姫路・明治１７年板室・明治１７年伊豆山・明治１１年一新講社木版大坂伊勢・**鹿嶋香取筑波日光参詣順路之図**木版３１ｘ４５ｃｍ・大坂金比羅一新講社定宿引札・神戸港廻船問屋引札・男山八幡宮参詣定宿引札

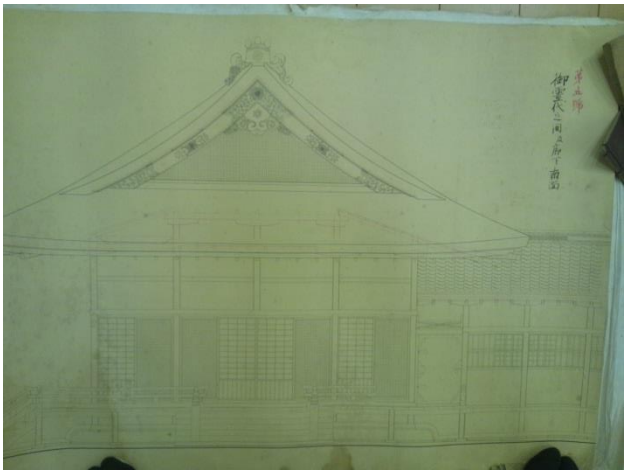
大日本道中記全　明治１１年　銅版横本　４２丁　全頁細密図入り

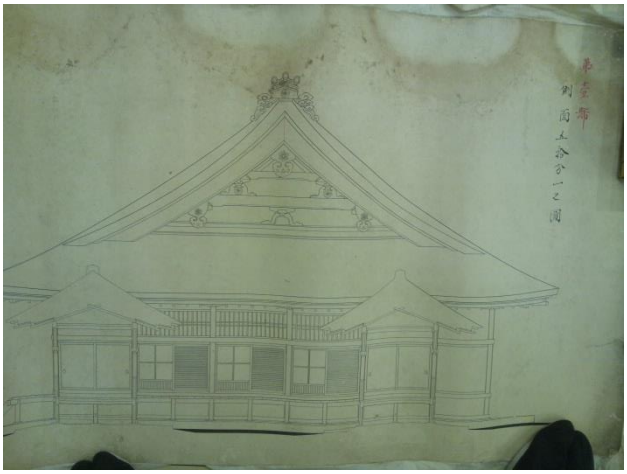
土佐国編年紀事略　全１０冊　昭和６年　孔版印刷和装本

南千島色丹島誌　大野笑三　１９４０年

官許読売新聞　明治７年　２４・２７・２９・３４号　２８ｘ３６ｃｍ　隔日出版　両面印刷

毛利3本矢伝承軸　印刷　応吉川家之要望　為久四郎氏　陽春謹画





2月15日の豪雪

あとがき

金沢で豪雪には慣れていましたが、ここ群馬安中は雪国ではありません。最寄りの国道１８号線は群馬と長野を結ぶ幹線ですが、碓氷バイパスは３日間通行止め、６５０台のトラックが閉じ込められました。博物館周りの土塁も雪で埋まり、玄関は落雪で２ｍの雪の壁、融雪装置と除雪車のある雪国とは違いました。パウダースノーも数日たつと氷の塊、轟音とともに落下します。３日間、自宅に閉じ込められ、雪は１か月残りました。もちろん、城跡の調査もできず、あらゆる骨董市は半月間中止、従って、競り市や入札会の出品も激減です。展示会準備で追われたこともあり、３月の発行は出来ませんでした。２４時間、できることの限界を感じる日々です。１年に１回は展示会と思いますが、なかなか準備が大変です。それでも、そのうち、群馬の絵図、地図展、印刷文化展、陸軍省城絵図展、中世城郭絵図展等は開催したいと考えて居ます。適当な会場があれば紹介ください。安中榛名の駅近く、博物館近在に公民館が完成しました。古地図の交換会や展示会に仕えるかと考えて居ます。

発行所

しろはく古地図と城の博物館　富原文庫
379－0109
群馬県安中市秋間みのりが丘5－73
090－2722－4689(しろはく)
ＦＡＸ027－315－4689(しろはく)
shirohaku@kym.biglobe.ne.jp